

科目名	家族社会学			ナンバリング	SOC151	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	菊池真弓	担当教員					

授業の概要	第2次大戦後の日本家族の変動と、それに伴う家族問題のあいづく発生は、今日の家族研究をますます拡大化させている。このような状況を踏まえて、本講義では、家族社会学の基礎的な理論と技法の側面とそれらを応用した事例分析に基づき、現代家族の多様な動態を読み解くことを目標とする。						
到達目標	1.家族社会学とは、いま家族に何が起こっているのか、家族社会学の基本的な視点を説明することができる。 2.夫婦・親子関係の諸相や現代家族における夫婦・親子関係の動向について説明することができる。 3.わが国・海外の家族構造の変化、今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	新聞やテレビなどで報道される現代家族の実態や意識の変化に関心を持つように心がけてください。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.家族の定義、家族社会学の基本的な視点を説明することができる。 2.現代家族における夫婦・親子関係の動向について説明することができる。 3.今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。	1.家族の定義、家族社会学の基本的な視点を説明し、かつ具体的な事例にあてはめて考察することができる。 2.現代家族における夫婦・親子関係の動向とそれらの現状と課題について説明することができる。 3.諸外国と比較しながら、今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					70%
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		20%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の質問や感想などについては、次回の授業でコメントする。 2.ミニ・レポートについては、評価基準を示した上で、返却する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	家族とは何か(ガイダンス)	家族社会学とはどのような学問か、そしていま家族に何が起こっているのか、家族社会学の基本的な視点を説明できる。	
	第2回	家族社会学の基礎(1)	家族形態、家族の内部構造、家族と社会、家族社会学に関する専門用語について説明できる。	
	第3回	家族社会学の基礎(2)	研究成果の理解と評価に関わるガイドライン、それらの重要ポイントについて説明できる。	
	第4回	家族研究の意義	家族社会学の研究対象と家族研究の意義、家族研究の位置づけについて説明できる。	
	第5回	家族社会学の成立と展開	家族社会学の歴史的な成立と展開、家族社会学の研究動向について説明できる。	
	第6回	夫婦関係の諸相	夫婦関係分析の位置づけを踏まえて、夫婦関係の諸相や現代家族における夫婦関係の動向について説明できる。	
	第7回	現代家族における夫婦関係(1)	未婚化・晩婚化の進展と夫婦関係の現状、現代家族における夫婦関係の現状と課題について説明できる。	
	第8回	現代家族における夫婦関係(2)	親族呼称と夫婦間の認識・差異の現状、現代家族における夫婦関係の現状と課題について説明できる。	
	第9回	親子関係の諸相	未成人子期・成人期と親子関係の諸相、現代家族における親子関係の動向について説明できる。	
	第10回	現代社会における親子関係(1)	団塊ジュニア世代の親子関係、現代家族における親子関係の現状と課題について説明できる。	
	第11回	現代社会における親子関係(2)	老年期の親子関係、現代家族における親子関係の現状と課題について説明できる。	
	第12回	家族構造の変化	わが国の家族構造の変化、今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明できる。	
	第13回	海外の家族研究(1)	中国における家族動向から海外の家族研究の現状と課題について説明できる。	
	第14回	海外の家族研究(2)	韓国における家族動向から海外の家族研究の現状と課題について説明できる。	
	第15回	まとめ	家族社会学の総括を行い、講義内容についての理解度を確認する。	
	試験	試験を実施する。		
授業の進め方		①教科書・配布プリントに従って授業を進める。②毎回、小レポートを提出してもらう。③最終試験を実施する(教科書・配布プリント・自筆ノートを持ち込み可とする)。		
授業外学習の指示		【予習】次回取り上げる教科書の章を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。【復習】教科書・配布プリントを復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	清水浩昭編『家族社会学へのいざない』岩田書院,1,800円,ISBN978-4-87294-499-0
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	適宜、授業内で紹介する。
その他	